



通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌
University of Teacher Education Fukuoka Campus Magazine

vol. 38
2017 Winter

特集1
夢が叶って
先生になります！

特集2
櫻井学長と
平成28年度入学生との懇談



教員採用試験に合格し、4月から教師生活をスタートさせる11名の先輩達です。特集1に先輩達からの熱いメッセージが掲載されています！



国立大学法人
福岡教育大学

vol.
38

CONTENTS

- 02 特集1
夢が叶って先生になります！
- 12 特集2
櫻井学長と
平成28年度入学生との懇談
- 14 福教大NEWS
- 18 授業紹介
聴覚障害児指導法Ⅱ(相澤宏充教授)
教育実践研究の理論と授業分析トライアル
(青山之典准教授、矢野俊一教授、青木哲也教授)
- 20 研究室紹介
- 21 サークル紹介
男子ハンドボール部
演劇研究会
- 22 社会連携 連載第16回
- 24 福教大卒OB・OG
福岡教育大学附属福岡小学校教諭
鐘江 貴子さん
小倉聴覚特別支援学校教諭
高戸 季来さん
- 26 TOPICS
学生サークル「ゆかいくらぶ」が学生地域
活動大賞の優秀賞を受賞しました
表紙モデルの福教大生☆
- 27 キャンパスからの便り

特集 1

夢が叶って先生になります！



本号の特集1「夢が叶って先生になります！」では、平成28年度実施の本学の教員採用試験合格状況、本学のキャリア支援に関する取組とともに、実際に教員採用試験に合格した学生の声を紹介します。

キャリア支援センター長挨拶

キャリア支援センターでは、学生のみなさんが「教員になるという夢」を実現できるように、さまざまな取組を行いサポートしています。教員採用試験の一次・二次試験対策を中心とした特別講座、教員として活躍する先輩と出会うことのできる教職イベントなど、1年を通して学びの場を提供し、夢の実現を応援しています。

ここでは、おすすめの2つの取組を紹介します。1つは、小学校での校長経験のある4名の「就職支援アドバイザー」による支援です。具体的な学習方法から、教員としての心構えまで、何でも相談することができ、教員を目指すみなさんにとって大きな存在になっています。ぜひ、アドバイザーとたくさん話をし、いろいろなことを吸収して、自分の財産にして欲しいと考えています。

もう1つは、3年次以降に同じ都道府県や学校種を受験するみなさんでつくる「グループ」による活動です。教員採用試験合格への道は、ときに孤独なものです。しかし、このグループでは、仲間と一緒に学ぶことでお互いを鍛えながら、励まし合いながら同じゴールへ向かって走りきることができるのです。学内では、学び合う学生の姿を多く見かけます。この仲間での活動する経験は、教員採用試験合格という結果を得るためだけでなく、その後の貴重な財産となるのではないのでしょうか。

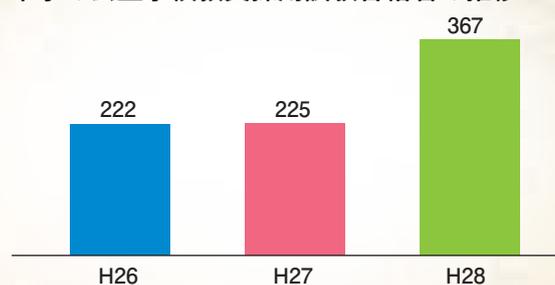
キャリア支援センターは、これからも進化しながら、学生のみなさんの夢の実現のために全力で取り組んでいきます。みんなで前進していきましょう。

キャリア支援センター長 生田 淳一

本学の教員採用試験合格状況

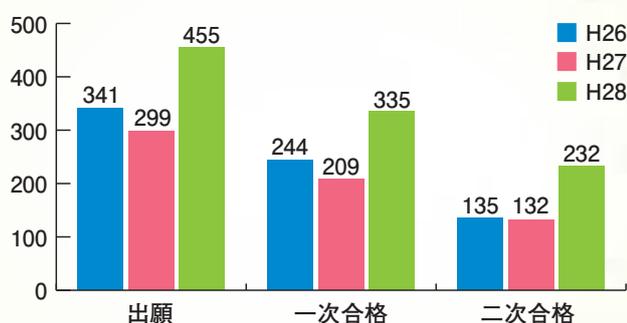
本学の平成28年度実施公立学校教員採用試験の合格者の状況は右図のとおりです。本年度は、募集人数の増加や福岡市が別日程で試験を実施したことなどにより併願受験者が増加しました。キャリア支援センターでは、受験地に応じた個別指導の徹底、二次試験対策として短期集中プログラム(模擬授業・面接対策講座)などを実施し、合格者は、昨年度より142名(延べ人数)増えました。また、合格者の実数も77名増えています。(平成29年1月31日現在)

本学の公立学校教員採用試験合格者の推移

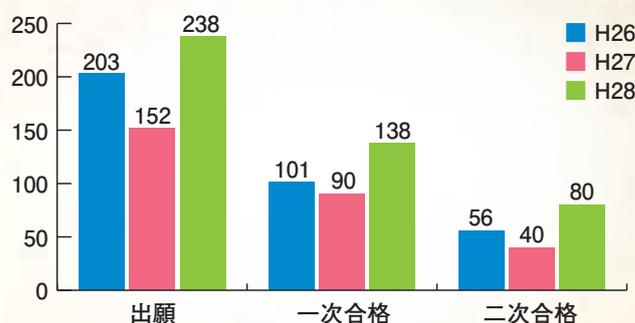


校種別の状況(延べ人数)

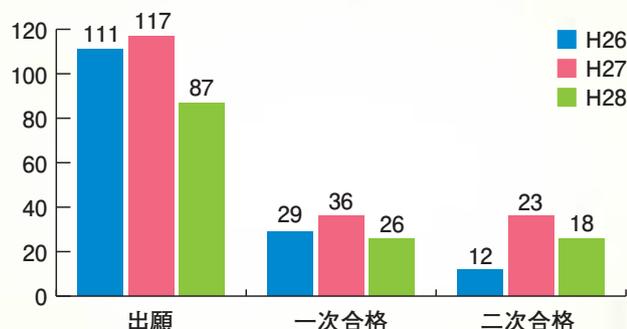
小学校



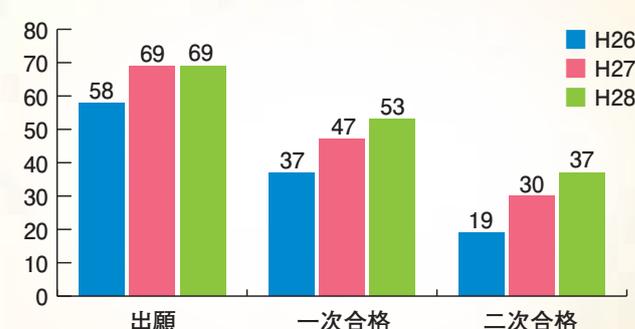
中学校



高等学校



特別支援学校



福岡県内をはじめ、他自治体へも合格しています。

自治体別公立学校教員採用試験合格者 内訳

平成29年1月31日 現在

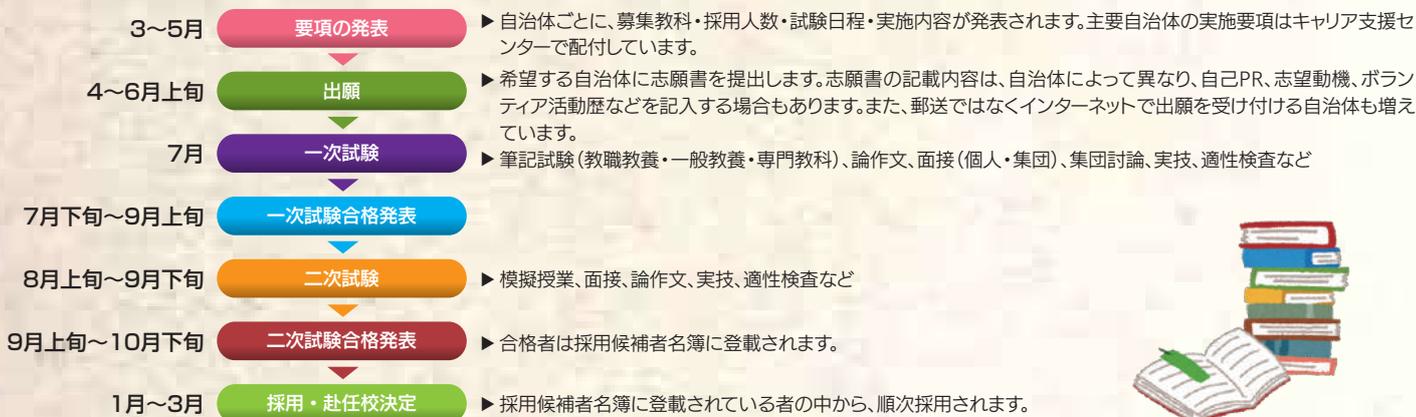
	九州・沖縄										小計 (九州・沖縄)
	福岡県	福岡市	北九州市	佐賀県	長崎県	熊本県	熊本市	大分県	鹿児島県	沖縄県	
H28実施	159	72	32	4	7	3	1	6	3	2	289
H27実施	109	18	27	3	2	1	2	4	0	1	167

	山口県	広島県・市	岡山県・市	鳥取県	島根県	愛媛県	兵庫県	神戸市	他	合計(全国)
H28実施	14	10	2	1	2	2	3	1	43	367
H27実施	8	13	2	2	1	1	0	1	30	225

※延べ人数

公立学校教員採用試験とは

公立学校教員採用試験は、都道府県教育委員会と指定都市教育委員会によって個別に実施されます。福岡県の場合は、福岡県・福岡市・北九州市の3つの教育委員会で実施されています。



教員採用試験Q&A

Q. 複数の自治体を同じ年に受けられる?

A. 日程次第で、複数の自治体を受験することもできます。一次試験の日程は地区ごとにほぼ統一されています。平成28年度実施の場合、関東地区が7月の第2週目、中国・四国・九州(福岡市を除く)地区は7月の第3週目でした。東京都、横浜市は一次試験を福岡市でも実施しているため、多くの学生が併願受験しています。試験に慣れるためにも複数の自治体を受験しましょう。

Q. 倍率はどのくらい?

A. 自治体、受験区分によってもばらつきがあります。小学校は採用人数が多いため、倍率は低くなっています。高等学校は、年度によっては、採用のない教科もあるので、受験年度の実施要項をよく確認するようにしてください。

【参考:福岡県の実質倍率(平成28年度実施)】

小学校	2.1倍	中学校	3.1~8.7倍
高等学校	4.5~23.0倍	特別支援学校	3.7倍

就職支援アドバイザーからのメッセージ — 教師を目指すみなさんへ —

就職支援アドバイザーとは

就職支援アドバイザーは、教員採用試験特別講座の企画・運営、教員採用試験の情報収集、面接(集団・個人)、集団討論、模擬授業の指導、論作文の添削等、教員採用試験全般の支援を行っています。

毎年、多くの学生が自分の生涯の職として教員の道を選択し、大学を巣立っています。私たちは、そのような学生を支援するため、特別講座を開講したり教育相談に応じたりしています。気軽にキャリア支援センターを活用してください。今教育界は、若い優秀な教員を求めています。大学生活の中で、授業はもちろんのこと、ボランティア活動、サークル活動など、様々な体験活動を通して教員としての資質・能力を高めてください。

Koichi Hidaka ひだか こういち 日高 孝一



皆さんが教師として学校の教壇に立つことになる数年後の未来には、次の時代、更に次の時代を担うことになる子供たちが目を輝かせて、皆さんを待っています。その子供たちに皆さんはどのような姿で出会うのでしょうか。私には、全ての子供に安心と勇気を与える頼もしい「先生」の姿が浮かんできます。この福岡教育大学で学び、力をつけた皆さんなので、大学での全ての体験が未来の姿につながるように、さあ、行動開始!

Hidetoshi Yamashita やました ひでとし 山下 英俊



「どんな教師になりたいか」を考えて下さい。そのためには「どんな学びや経験をしたらよいのか」をいろいろ考えて下さい。その上で、「勉強や体験活動」をたくさんして下さい。その途中で悩むことがあれば、遠慮なく尋ねて下さい。それが私たちアドバイザーの職務以上に楽しみなことです。「きつかった。がんばった」でも「よかった」の春をめざして!

Yasushi Enokida えのきだ やすし 榎田 也寸志



就職支援アドバイザーの願いは、教員を目指している皆さんが、教員採用試験を見事に突破して、一人でも多くの学生が希望する自治体に卒業と同時に4月から「教諭」として採用され活躍されることです。児童生徒数が減少する中、ここ数年は、団塊の世代が退職年齢を迎えて、採用者数が多い状況ですが、数年後は減少に転じてより狭き門になります。『現役一発合格!』を目指して、「教員採用試験のための特別講座」に出席して下さい。

Shuji Miyashita みやした しゅうじ 宮下 修司



教員採用試験のための本学の取組

キャリア支援センター主催の特別講座や年間を通して企画、実施されている「教職イベント」等を紹介します。

教員採用試験のための特別講座

教員をめざす学生を対象に通常の授業とは別に、2年次から週2回「教員採用試験のための特別講座」を開講しています。

教員採用試験の内容は筆記試験(教職教養・一般教養・専門教科)、論作文、実技、集団討論、面接(個人・集団)、模擬授業、適性検査など幅広く、特別講座ではそれらの内容を段階に応じて、受験地や受験校種ごとにきめ細かい指導を行っています。

2・3年次では、受験地・校種別にグループをつくり、過去問分析をするなど、グループでの活動を取り入れ、教員採用試験に向かうモチベーションを高めています。

4年次では、実際の試験に即した内容で、面接や模擬授業練習等を、採用試験直前の時期には毎日実施しています。

また、就職支援アドバイザーによる個別相談や志願書・自己PR等の添削指導も行っています。



教員採用試験のための特別講座「予想問題にチャレンジ」

教員採用試験学内模擬試験

年3回(4・12・2月)、学内で教員採用試験模擬試験を実施しています。自分の弱点を把握するためにも積極的に受験しましょう。

教員採用試験学内説明会

各自治体の教員採用担当者による学内説明会を開催しています。各自治体の教員採用試験の実施状況や試験内容、教育現場の様子などについて説明があります。(開催時期:4~5月、11~2月)



教職イベント

教職イベントは、教員を目指すモチベーションや教職キャリアを高めるため、年間を通して実施される取組です。全学生を対象とし、若手教員との交流会、教員採用試験合格者によるパネルディスカッションなど様々なイベントを企画しています。

教壇に立つ準備のための講座(2~3月実施)

卒業後に教員となる学生を対象として、教育現場に自信を持って巣立ってもらうため、演習形式を取り入れた準備講座を実施しています。



第5回教職イベント「教員採用試験合格者によるパネルディスカッション」



小学校の先生になります！



初等教育教員養成課程
国語選修 4年

いとう ゆき な
伊東 雪那さん

▶福岡県立小倉高等学校出身
北九州市教員採用試験 小学校合格

①課外活動について

大学在学中は、学生自治会の学祭実行委員として大学祭の企画運営などに関わりました。「大学祭を盛り上げたい」と思い自ら選んで入った委員会でしたが、楽しいことばかりあるわけではなく、企画を一から作り上げたり、同じ委員会の仲間たちとより良い大学祭にするために幾度となく話し合いを重ねたりと、時にはその責任の重さに押し潰されそうになったこともありましたが、しかし大学祭当日、自分たちの力を信じて努力し続け作り上げた大学祭を、楽しんで下さっているお客さんたちを見た瞬間、それまでの全ての苦勞の何倍もの喜びや嬉しさを感じる事が出来ました。仲間たちと協力して何かを成し遂げる事の楽しさ、そして自分の力を信じて努力し続ける大切さを学びました。



大学祭の準備の様子

②教育実習について

私は幼い頃から「学校の先生」になることが夢で、その実現のためにこの大学に入学しました。ですが、3年生の頃に初めて行った初等教育実習では授業中児童の質問に対して何を答えればいいのかわからず、教師としての自らの実力不足を強く感じました。そこで、このままではだめだと反省し、4年生の時に参加した中等教育実習では前回の反省を生かして授業準備なども生徒の反応をいくつも予想して沢山の筋道や説明を想定して臨みました。実習中も常に他の先生方のアドバイスや意見を参考に授業を行ったおかげで、生徒から「先生の授業は面白かったしすごくわかりやすかった」と言ってもらうことができ本当に嬉しかったです。



ともに教育実習を過ごした仲間との記念写真

③教員採用試験対策について

教員採用試験の勉強は同じ地域を受験する人と一緒に協力して行いました。試験の傾向を専門教科に合わせて分担して調べたり、その地域の問題に合わせて予想問題を作ったりと、週数回集まって話し合いながら進めたため、良い雰囲気の中で実力を高め合うことができました。一人ではあれだけの量の試験対策問題を集めることはできない、というほどの問題を解くことができましたし、また苦手な教科はその教科を得意な人に聞くことができたので効率よく勉強できたと思います。最終的に試験を受けるときは自分の実力のみが頼りではありますが、同じ目標を持った仲間と切磋琢磨できたことで自信を持って臨むことができた点において、一緒に頑張ってきた友達にはとても感謝しています。



試験対策講座風景



集団討論練習

④大学生活を振り返って

大学生活では正直全てが思い通りになったというわけではありません。むしろ完璧にできたことのほうが少ないかもしれません。時にはつらくて全てを投げ出したくなったことも、友達と喧嘩をして言い争いになり大学に行きたくないことも多々ありました。でもそんな時に「負けてたまるか!」と踏ん張り、あきらめなかったからこそ今の自分があるのだと思います。「現状を変えて後顧の憂いを断つ」ということわざにもあるように、後悔しないために今を頑張ることで必ず未来は開けます。そして間違いや失敗をしてしまった時には、その現状であきらめるのではなく、「次はどうしようか?」と気持ちを切り替えて一歩進んだ自分でもまた頑張る。一歩一歩は小さいものかもしれませんが、それが積み重なれば大きな成長となります。これから教員を目指す在学生のみなさんには、自分の力を信じて頑張ってください。

教員採用試験合格者メッセージ

小学校の先生になります！



大学院教育学研究科教職実践専攻
教育実践力開発コース 2年

よこ はり ゆい
横張 唯さん

- ▶ 福岡県立城南高等学校出身
- ▶ 福岡教育大学初等教育教員養成課程
音楽選修卒業
- 福岡市教員採用試験 小学校合格



実習風景

①教職大学院での学びについて

教職大学院の学修では、教科指導のみならず、生徒指導、家庭・地域との連携や教師間の協働といった現場で必要となる教師の専門性を理論と実践の往還を通して学ぶことができました。また、教員採用試験対策においては、教授や現職院生による熱心なご指導のもと、教員採用試験に直結する数多くの学びを得ることができました。何より、最後まで諦めずに頑張ることができたのは、「教師になりたい」という強い思いをもった大学院の仲間たちがいたからです。楽しい時も辛い時もいつもそばに気持ちを分かり合える大切な仲間がいて、そんな仲間とともに、集団討論や模擬授業、個人面接をし合う中で、深い絆を築くことができました。



教職大学院での授業風景

②実習について

2か月間の附属学校における実習では、それぞれの教科の専門性や教材研究の姿勢を学ぶことができました。日々、リフレクションを積み重ねていく中で、教師としての課題も見つけることができました。コラボレーション実習では、幼稚園と中学校に行く中で、私が就職する小学校に入学してくる子供たちが受けた学びや卒業していく子供たちが受ける学びを肌で感じることができました。さらにはそれぞれの発達段階での子供たちとの関わり方を考え直すことができました。何より私を一番成長させてくれたのは、1年間にわたって学校現場にかかわるTA実践インターンシップ実習です。1年間を通して、様々な教科で授業をしたり、学級経営や生徒指導にあたりたり、周りの先生方と協働して学校行事に参加したりなど様々な体験をすることができました。その結果、担任として、学校職員の一員として必要な力を身に付けることができ、4月から学校現場で自信を持って仕事ができると思います。

③教員採用試験対策について

教員採用試験の対策は、毎日のように教授や現職院生の方々から熱心なご指導をして頂きました。その際、心の支えとなったのは、家族はもちろんのこと、大学院の大切な仲間たちです。一人で勉強することも大切ですが、同じ教師という夢をもつ仲間と一緒に勉強することで、お互いの得意分野を生かし合うことができ、より学びが深まりました。また、教員採用試験対策時期に実習もさせて頂いていたため、模擬授業や面接等にも実習での学びを十分に生かすことができました。



④大学院生活を振り返って

教職大学院での2年間の学びと経験は、私にとって大変貴重なものだと思います。学部時代は教科指導のことしかほとんど考えたことがありませんでした。そのため、「教壇に立つ自分の姿が思い描けない」「専門とする音楽科以外を指導できる自信がない」「一人ひとりと向き合った生徒指導ができる自信がない」といった不安を抱いていました。しかし、理論的・実践的に学ぶことのできる、教職大学院という恵まれた環境の中で、これら1つ1つの不安を解決することができたと同時に、多くの学びを得ることができました。また、単なる学びで終わるのではなく、学んだことを実際に行う場も多くあったため、実践力も身に付けることができました。4月からの学校現場では、これらの学びを生かして、一人ひとりの子供の良さを生かし合うことのできる学級・学校づくりに励んでいきたいと思っています。



中学校の先生になります！



初等教育教員養成課程
保健体育選修 4年

た さか さえ
田坂 冴さん

▶福岡県立修猷館高等学校出身
福岡県教員採用試験 中学校保健体育合格

①課外活動について

私は4年間柔道部に所属していました。入学したときは、女子部員が2人しかおらず、男子部員に混じっての練習でした。やはり体力差があったので、毎日ボロボロに投げられ、1年生では治癒に半年程かかる肉離れを起こしてしまいました。練習することも歩き回ることもできず苦しかったですが、苦しいときこそ成長のチャンスと考え、努力することが大事だということに気付くことができました。復帰してからは、毎日の男子部員との練習のおかげで、女子選手と試合をするのが怖くなくなり、気が付けば高校生の時に比べて精神的にも身体的にも成長することができていました。また、きつい練習を共に乗り越えた仲間がかけがえのない存在です。一生大切にしていきたいと思っています。



②教育実習について

私は附属での実習と協力校における実習に行き2つのことを感じました。まず1つ目は、準備の大切さです。はじめは、これだけ準備すれば普通に授業はできるだろうと思っていましたが、実際にやってみると全く授業として成り立っておらず、反省の繰り返しでした。その中で、授業に完璧なものはないが、毎回完璧な授業の準備をして臨むことが重要だということを学びました。来年からこの教訓を活かしていきたいと思っています。

2つ目は、教師は教科の内容を教えることがすべてではないということです。もちろん授業は上手な方がいいですが、コミュニケーション能力や道徳心を身につけさせ、集団の中でよりよく過ごしていけるように常に教室の中で子供たちの姿を見ていくのが教師の大事な仕事だと実感しました。



教育実習風景

教育実習中にもとに過ごした仲間と

③教員採用試験対策について

私が重要だと感じたのは勉強習慣と仲間づくりです。私は柔道部に所属しており、授業も色々と履修していたので、勉強する時間がありませんでした。そこで、毎日練習が終わったら近くの空き教室に行き、夜10時までの2時間は勉強するように決めました。習慣をつけることでオンオフをしっかりとつくりことができ、部活をしていても毎日2時間だけは集中して勉強することができました。また、受験は団体戦だと言われていますが、本当にその通りで、教採仲間を作り何人かで試験の傾向の情報収集や対策をすることによって、より効率よく勉強することができました。そして、仲間と体育の実技練習や勉強をすることで競争心も高まり、常に高いモチベーションを維持することもできました。



体育実技練習風景

④大学生活を振り返って

私は推薦入試でこの大学に入学し、部活動もしながら教員を目指してきました。やはり、学業と部活動の両立は難しく、はじめは練習についていくのがやっとでした。しかし、年を重ねていくごとにきつい練習や90分の授業にも慣れ、少しずつ大学生活が楽しくなりました。今思い返せば、あんなにもやりたいことに全力で取り組むことのできた4年間は本当に幸せだったのではないかと思います。

大学から就職する人が多いと思いますが、大学は何も考えず勉強や部活ができ、遊びもできる最後のチャンスだと思います。在学生のみなさんには、人生最後の学生生活を充実させるためにも、やりたいことはやって絶対に悔いの残らない生活を送ってほしいです。また、せっかくの学べる機会なので、必修の授業が少ない時はぜひ興味のある授業を受けに行ったりしてほしいです。



教員採用試験合格者メッセージ

特別支援学校の先生になります!



特別支援教育教員養成課程
初等部肢体不自由児教育専攻 4年

かわ さき こう き
川崎 洸輝さん

▶ 熊本県立東稜高等学校出身
福岡市教員採用試験 特別支援学校
小学部合格

年齢や立場の違いを越えて人のために働く被災者の方々、支援して下さった様々な方の姿を見て、人々の団結力の強さを感じました。

① 課外活動について

「こぼとの会」というダウン症児を対象としたサークルに加入し、子供・学生あわせて50名以上での2泊3日のキャンプに参加しました。2年次には、リーダーとしてキャンプの企画・運営も行いました。その中で、大勢の子供や学生をまとめながら、1つの行事を運営していくことの難しさを感じました。こぼとの会の他にも、4年間で11のボランティア団体の行事に参加し、多くの子供たちと関わりました。それぞれの行事の中で、一人ひとり実態の異なる子供たちが、安全かつ楽しんで活動に参加できるように、学生同士で話し合いながら、より良い行事となるように改善を図っていきました。

また、4月に起きた熊本地震では、震源地から6キロの距離にあった実家が被災したため、本震の直後に帰省し、ボランティアの支援体制が十分に整っていない中で、地元の友人たちと共に避難所への物資運搬や支援物資の仕分け作業などを行いました。その際に、



こぼとの会 ボランティア優秀賞授賞式



サークルの仲間と一緒に

② 教育実習について

3年次の教育実習では、附属小学校の6年生と特別支援学校の小学部1年生のクラスでそれぞれ3週間の実習生活を過ごしました。附属学校における実習では、実習班の仲間と意見を出し合い、協力しながら授業づくりを行いました。また、実習中に「授業がたのしい!」と思えるような授業だったら勉強を頑張ろうと思う!という子供たちの声を聞き、子供たちが興味関心を持つことができる授業づくりの大切さを感じました。特別支援教育実習では、教員自身が子供たち一人ひとりの将来の姿を見据えた上で、それぞれの実態に応じた学習内容を考えて指導を行っていくことの難しさを感じました。その反面、自分自身も子供たちの将来のために、個々のニーズに応じた指導を行っていきたいと感じ、特別支援学校の教員になりたいという思いが強くなりました。



ともに教育実習を行った仲間と一緒に

③ 教員採用試験対策について

筆記試験の対策では、試験問題の分析を細かく行いました。自治体ごとの出題傾向や得点配分などを調べた上で、勉強のスケジュールを立て、無理のないペースで計画的な学習を行いました。私は、ずっと勉強し続けることが難しく、適度に息抜きが必要なタイプだったので、時には家でゆっくりしたり、友人と旅行に行ったりして気分転換をしました。遊ぶときは思いっきり遊び、勉強するときは勉強する。このような、オンとオフの切り替えが大切になってくると思います。

2次試験の対策では、自己分析を行い、自分のアピールポイントが何であるかを考えました。私は、自分のアピールポイントが「元気さ」や「ハツラツさ」であると考え、模擬授業や面接練習も、明るく元気な受け答えを意識して行いました。その中で、友人やキャリア支援センターの先生方にアドバイスをいただきながら何度も繰り返し練習を行い、本番までに自信をつけることが出来ました。



一緒に勉強したサークルの友人たち



肢体不自由児教育専攻 4年生

④ 大学生活を振り返って

私にとって、この大学4年間は「夢を見つける場所」そして「夢に向けて様々な体験を通して大きく成長する場」でした。日頃の授業、サークル活動、教育実習、ボランティア活動、アルバイト、余暇活動などすべての経験が、自分自身を成長させる糧となり、一生の財産になります。4年間で出会った全ての人の感謝を忘れず、4月からは教員として明るく元気に頑張っていきます!ありがとうございました!



4年間で振り返って思い出の1枚



福岡県教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
数学選修4年

し れん か な
枝連 加奈さん

▶福岡県立香住丘高等学校出身

私が採用試験に合格できた大きな理由を2つ紹介します。

1つ目は、1年生の時から宗像市の小学校でボランティア活動を行っていることです。ボランティア活動で小学生と関わったり、先生方の指導の仕方を学んだり、多くの経験をすることができました。

2つ目は、採用試験に向けた勉強や練習を、同じ自治体を受験する友達と一緒にに行っていたことです。そうすることで、自分の長所や課題を見つけやすくなるとともに、みんなで気持ちを高め合うことができました。

2つの理由に共通していることは、「人とのかかわり」です。1人で頑張っていると、いつかどうしても越えられない壁が出てきます。これから教師を目指すみなさんには、合格のために、周りの人とのかかわりを大切にしてほしいと思います。そして合格できた時には、お世話になった人に恩返しをしましょう。



福岡市教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
教育心理学選修4年

たけうち ななみ
竹内 奈々実さん

▶福岡県立修猷館高等学校出身

私は、合格するために、学部の友達を中心にして一次試験の筆記の勉強を春から一緒に頑張りました。更に、面接や模擬指導の練習は、キャリア支援センターの講座などで作ったグループのメンバーと共に、自主的に集まってたくさん練習しました。教員採用試験の勉強や面接の練習は一人で言うよりも、友達とした方がいいと本当に思います。共に頑張った仲間なので、今でも仲がいいです。是非仲間を作って頑張ってくださいね。

また、二次試験の対策のために、ボランティアやアルバイト、留学でも何でもいいですが、色々なことを経験しておくと思います。私もそのような経験が面接の対策をする時に役立ちました。

最後になりますが、教員を目指す皆さん、たとえ挫けそうになることがあっても、素晴らしい仲間と一緒になら大丈夫です。楽しく気楽に試験を乗り越えてくださいね。



福岡県教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
生活・総合選修4年

はま だ けん と
濱田 賢人さん

▶福岡県立鞍手高等学校出身

教員採用試験に向けて私はキャリア支援センターが主催する無料講座に積極的に参加していました。参加をすることで自分のすべきことを明確にすることができました。

無料講座で作ったグループの友達と協働しながら勉強したことが合格につながったと思います。皆で過去問を分析し、福岡県の傾向にあう問題集を自分たちで作りながら解いたことで、楽しく勉強をすることができました。二次試験の対策もグループの友達と行き乗り越えることができ、グループ全員が第一希望に合格することができました。

採用試験は人間的に成長できる機会でもあります。乗り越えないといけない壁がたくさん出てくるとは思いますが、努力して自分を信じ抜いた先に合格があるので諦めずに最後まで笑顔で頑張ってください。そして冬を越え、春に一人ひとりの桜を咲かせてください。



福岡県教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
幼児教育選修4年

ふじ わら とも こ
藤原 知子さん

▶山口県立防府高等学校出身

私が教員採用試験に合格することができたのは、キャリア支援センターの先生方に支えて頂いたおかげです。キャリア支援センターに置いてある教員採用試験関連の雑誌を読むためによく足を運んでいました。そこで勉強をしていると先生方が教員採用試験に関するアドバイスをくださったり、励ましの言葉をくださったりしました。それだけでなく志願書や小論文の添削、集団討論や模擬授業、個人面接などの指導をしていただきました。教員採用試験のことを全く何も知らない所から始め、不安でいっぱいだった私にとって、先生方から頂いた言葉や情報は大きな自信となりました。

これから受験する皆さんには積極的に講座に参加するなどして、キャリア支援センターの先生方と勉強を進めていくことをおすすめします。笑顔の子供たちと過ごす姿をイメージして、夢に向かって頑張ってください！



鹿児島県教員採用試験 小学校合格

初等教育教員養成課程
保健体育選修4年

ひ だか

日高 なつみさん

▶鹿児島県立鶴丸高等学校出身

私が、教員採用試験に向けてやってよかったと思ったことは、『鹿児島県グループのメンバーや友達との勉強』と『ボランティア』です。一緒に頑張る仲間との存在は、とても大きく、苦しいときの支えになりました。ボランティアの経験は、面接の際に自信をもって話すことができる自分だけの武器となりました。また、勉強で行き詰った時は、キャリア支援センターで、友達と情報交換をしたり、先生方からアドバイスをもらったりして気分を切り替えることが出来ました。

これから教員採用試験を受ける皆さん、勉強はもちろんですが、今しかできないことにも全力で取り組んでください。きっと、その経験がみなさんを支えてくれます。合格に向けて、自分を信じ、最後まで諦めずに頑張ってください。



福岡市教員採用試験 中学校合格

中等教育教員養成課程
国語専攻4年

かしわ き すず か

柏木 涼花さん

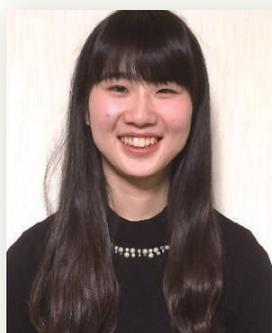
▶熊本県立水俣高等学校出身

教員採用試験に向けての勉強以外にしておくといいと思うことを2つ紹介します。

まず1つ目はどんな内容でもいいので、ボランティアに行ってみる事です。私は3年の時、宮城県での夏休みの学習支援ボランティアに行き、実際に行動することの大切さを学びました。まさに百聞は一見に如かずです。実際に様々な現場に行き行動することが、自分の身になる学びになります。

2点目はサークル活動やバイトなど、自分の課程以外の人との関わりをもつことです。教員採用試験に限らず、様々な場面で自分とは違った見方を提示してくれる存在はとてもありがたいものです。私はサークルで卒業後も繋がっていたいと思える友達と出会えました。

教員採用試験では筆記試験もちろんですが、これまで何をして過ごしてきたのかを問われることと思います。“大学生”という強みを活かして、様々な経験をしてください。



福岡市教員採用試験 特別支援学校合格

特別支援教育教員養成課程
初等部視覚障害児教育専攻4年

は た の ち とせ

波多野 千歳さん

▶私立九州国際大学付属高等学校出身

私がこれから教員採用試験を受けるみなさんに伝えたいことは2つです。1つめは、共に教員採用試験合格を目指す仲間をつくることです。筆記試験の傾向分析や集団討論、2次試験の模擬授業や面接練習などを1人でやっていくのはとても大変です。私はグループの仲間と一緒に筆記試験の傾向を分析したり、分析した結果をもとに自分たちで予想問題を作ったりしました。2つめは、積極的にキャリア支援センター主催の講座に参加することです。講座に参加していると出題ポイントや勉強の仕方が見えてきます。特に、集団討論や面接・模擬授業はしっかり練習していないと本番の時に柔軟に対応していくことが難しいです。練習のチャンスを逃さず、積極的に参加してほしいと思います。

最後に、「継続は力なり」です。最後まで諦めず努力をし続けて、合格を勝ち取ってほしいと思います。

今年度の教員採用試験では、教育学部学生において、本学の過去数十年の中で最も多数の学生が合格しました。

合格を勝ち取ったみなさんからのメッセージは、これから教員を目指す在学生にとって、大変参考になるとともに、心強い励ましの言葉となったことと思います。

4月から夢を叶えて教員としてのスタートラインに立つみなさん、卒業後のみなさんのご活躍を心よりお祈りしております。





特集 2 櫻井学長と 平成28年度入学生との懇談

—— 学生と一緒に改革を進めます ——

本学は、平成28年度から各課程で各学校種の教員として必要な資質能力を全般的に確実に修得できるように、①教員としての意欲・適性・基礎力を持つ生徒を受け入れるための入学者選抜の実施、②大幅な教育課程の改革、③教職教育院を中心とした指導体制の整備、④英語習得院や学校支援ボランティア活動による課外活動での様々な体験の充実等に取り組んでいます。

このような改革による新たな福岡教育大学の第一期生といえる平成28年度に入学した学生の学びの意欲や状況等を確認するとともに、さらなる改革に向けて、平成28年6月から平成29年1月にかけて、櫻井学長が各課程の入学生233人と懇談を行いました。

学生からは、おおむね下記のような声をいただいております。改革の成果を感じられる一方、授業内容等についての率直な御意見もいただきました。

これらの声もいかしながら、各学生の教職への夢をかなえられる大学に向けてさらに改革につとめてまいります。

懇談事項例 1 本学に入学して良かったと感じるところ、予想外なところについて

学生の意見、感想、要望等

- 高校までと異なり、クラスの中の同級生が全員教職志望者なので、同じ将来の夢や希望を自然な会話の流れの中で話すことができる。教員をめざす大勢の仲間と意見を交わしたり切磋琢磨して学びあえる。
- 1年次から各教科の指導法や教職関係科目を学ぶことができる。
- 指導案を初めてかいたので難しかった。
- 1年次から体験実習として学校現場を体験する機会がある。
- 初等教育教員養成課程では、小学校教員を目指す者同士で、全教科等を教えることとなる小学校教員になるために幅広く学べる。小学校の授業内容や自分が苦手とするピアノ演奏もしっかり教えてもらえる。
- 本学独自の取組であるクラス担任制度について「教職に向けての向上意識をもてる」、「教職をめざす者同士で切磋琢磨、刺激しあえる」、「仲間意識がもてる」、「クラス内が明るく、お互いに思いやれる」等の意見がありました。



懇談事項例 2

本学の新たなカリキュラムによる学びの意欲・成果・課題等について

学生の意見、感想、要望等

- 入学前は、1年次から教員になるための直接的な勉強ができるとは想像していませんでした。本学の先輩や他大学に進学した同級生より早く教職をめざすことができます。
- 初等教育教員養成課程では小学校教員をめざすカリキュラムでクラスの仲間と目標を同じにして学ぶことができます。
- 実際に活動したり、体験したりする機会が想像していたよりも多い。
- 聴講して教職としてどのような力がついたのか理解できない授業があり、聞くだけの授業は充実感がない。
- 入学前はとれるだけ免許・資格をとろうと考えていたが、免許・資格の取得を厳格にした理由や内容を広く知らせた方がよい。
- 福岡県以外の県で教職に就きたいので、当該県の教育について学びたいし、教員採用情報を入手していきたい。また、福岡県以外の県についても教員採用選考に向けて特別な支援を行ってほしい。
- 本年度から必修となった1年次の体験実習で学校現場を体験して、「教職への理解が深まった」、「子供たちが先生として接してくれて、教職への意欲・自覚が増した」、「いろいろな学年の生徒や自分の専攻の教科以外の授業も参観して、各教科の授業の特徴や生徒の成長の違いを感じた」、「授業以外に生徒指導、部活動も参観できて授業以外の業務も再認識できた」、「同じ福岡県内でも自分の母校と違った雰囲気のある地域があることを理解できた」等の意見がありました。



懇談事項例 3

英語習得院や学校支援ボランティア活動等の課外活動について

学生の意見、感想、要望等

- 小学校教員に必要とされる英会話の力を学べる。
- 英語習得院などがあり、英会話力習得に熱心である。
- 学校支援ボランティアが充実していると聞いていたが、こんなに充実しているとは思わなかった。
- ボランティア活動の支援が充実していることから、授業で学んだことや指導方法を実際にボランティア活動をととして試すことができる。
- 体験実習でお世話になった学校に、引き続きボランティア活動で学校体験させてもらえる。

懇談事項例 4

本学での学習、生活の環境について

学生の意見、感想、要望等

- 教員を目指すためのキャリア支援が充実している。
- 女子トイレがどの施設もきれいで、気持ちが良い。
- 設備、備品が教員をめざすために整っていて、気持ちが高められる。
- 事務職員の対応がとてもよい。



櫻井学長から学生へのメッセージ ● ● ● ● ●

高校までと違って大学の勉強や生活は、教職という同じ目標をめざす者同士で集団として勉強を進め、物事の解決を図っていくことが特色であり、仲間同士や教職員のみなさんとのつながりを大切にすることが重要です。本学で共に学び、活動したことにより得た力や人間関係は、教職を務める上でのコミュニケーション力や対人関係能力につながります。卒業後も教員として仕事を進めるうえで全国の同じ仲間と情報や取組を交わしていくことで一生の財産にもなります。

学生のみなさんは、卒業されるまでに一度ボランティア活動に参加してください。学校支援ボランティアに参加されるときは、是非、就職しようと思っている学校種とは違った学校に行かれることをおすすめします。

また、今後のグローバル化の中、広い視野を持ち、積極的にいろいろな体験に挑戦してもらいたいと思います。大学でも英会話の向上、留学などにも積極的に支援していきます。

福教大 NEWS 1 ▶▶ 「教育大へ行ってみよう!」を開催しました

福岡教育大学では、平成28年11月13日(日)に、学内にて大学開放推進事業「教育大へ行ってみよう!」を開催しました。

この事業は、小・中学校の休業日に大学を開放し、「科学」「ものづくり」や「音楽」など、様々なテーマをもとにした実験や実習を間近で見る、または実際に体験することで、子供たちに「科学の不思議さ」「作り上げていくことの達成感」「音楽の楽しさ」などを味わってもらうことを目的として、平成11年度から実施しています。

九州旅客鉄道株式会社(JR九州)やトヨタ自動車九州株式会社、コスモ・バイオ株式会社公開講座応援団、そして日本化学会九州支部の協力・協賛のもと、科学実験・体験、ものづくり・音楽体験企画として18のコースを実施し、子供とその家族合わせて約1,200名の参加がありました。

当日は天候にも恵まれ、各会場では、大学生や教職員の実演や説明を熱心に見聞し、科学やものづくり等の楽しさに触れるたび、身を乗り出しながら目を輝かせる子供たちであふれていました。

参加した子供たちから、「いつもはできないことができてうれしかった」、「大学は楽しそうだとおもいました。大学に早く入りたいです」「教えてくれたお兄さんやお姉さん達の説明がとてもわかりやすかった」との声や、保護者の方からは、「子供が興味を持ちそうな展示や遊びがいろいろ準備されていて良かった」「家に帰っても出来るものが多くあった」「とても楽しいイベントなのでもっと広報してほしい」など、たくさんの嬉しい言葉をいただきました。



科学で遊ぼう



つくろう!ひょうたん工作教室



くらしを科学する(みそをつかってみよう)



鉄道模型とミニジオラマをつくろう!

福教大 NEWS 2 ▶▶ 平成28年度学生ボランティア活動報告会を開催しました

福岡教育大学では、学生に社会との接点を持つ機会を与えるとともに、本学の特徴である教師をめざす上での教育実践力を育成することを目的に、学生ボランティア活動を教育の一環に位置づけ、その推進を図っており、昨年度は約2,300人の学生が活動に参加しました。3名の教員(校長)経験者によるボランティアコーディネーターを配置し、ボランティア活動サポートシステム(UTEFVSS)の整備、「学生ボランティア活動認定システム」の実施等の支援を積極的に行っています。

平成28年11月11日(金)、「平成28年度福岡教育大学学生ボランティア活動報告会」を開催しました。報告会には、ボランティア活動を行う学生を多く受け入れていただいている近隣地区(宗像市、福津市、古賀市、志免町、岡垣町)の教育委員会関係者の方々、学内からは学生と大学役職員、後援会会長、同窓会役員等、合わせて約230名の参加がありました。

はじめに、学生ボランティア活動認定学生の表彰式を行い、「平成28年度前期サポーター認定者」の10名及び3・4年生でリーダーの条件である300時間を大きく超え、学生ボランティア活動に熱心に取り組み、多大な社会貢献に尽力した「特別表彰」の受賞者3名が、櫻井学長から表彰されました。つぎに、羽原哲男ボランティアコーディネーターから学生ボランティア活動の重点的な取組と展望について説明があった後、古賀市や宗像市の小学校での学校支援ボランティア、地域のイベントやお祭りを通して地域振興活動に携わる地域支援ボランティア、小学生のレクリエーション活動を企画するボランティアサークルでの取組、東日本大震災の被災地における学習支援ボランティアなど、様々な学生ボランティア活動経験者5名による実践報告を行いました。活動経験者からは、学校現場の教員や児童生徒と深く関わった経験、教員を目指す意欲と意志が強くなったこと、保護者や地域の方々への対応力やコミュニケーション能力の向上に繋がったこと、教師となるために学生ボランティア活動を通して学んだこと等、意欲的な発表が行われました。加えて最後に、本学のボランティア活動を積極的に推進している井上豊久教授から講評と今後の展望が示されました。



表彰の様子



学校支援ボランティアの実践報告

参加した学生からは、「将来、教師になることを見据え、大学での学びだけでなく、ボランティア活動など学外での学びを大切に、教師としての資質・能力を高めていきたい。」「学校支援ボランティアに参加し、子供との接し方を学ぶことで、教える力を身につけていきたい。」「子供と関わる学校支援ボランティアだけでなく、地域振興に関わるボランティアもあることを知った。地域支援ボランティアに参加して、地域と学校の繋がりについて考えてみたい。」といった感想が寄せられ、今後の活動に繋がる有意義な報告会となりました。

本学では、学生の全員参加を目指し、今後一層の学生ボランティア活動の充実に努めてまいります。

福教大 NEWS 3 ▶ 第51回福教大祭を開催しました

福岡教育大学では、11月19日(土)～20日(日)の日程で大学祭を開催しました。今年度の大学祭も、福教大祭実行委員の学生たちを中心に、熱気あふれるステージ企画やイベントで大盛況の2日間となりました。ご来場いただいた皆様、どうもありがとうございました。

福教大祭実行委員長からのコメント

第51回福教大祭で実行委員長を務めさせていただきました、初等教育教員養成課程1年の日浦俊紀です。大学祭に参加してくださった団体さんや学校関係者の皆さん、さらには近隣住民の方々のおかげで今年度も福教大祭を無事成功させることができました。皆様のご理解・ご協力誠にありがとうございました。

来場者の皆様、第51回福教大祭はいかがでしたか。もし楽しんでいただけたのであればこれに勝る喜びはありません。テントが並んだ楽しそうな光景、ステージでの熱気あふれる出し物、そして何よりも皆様の見せてくださった輝かしいばかりの笑顔!その全てが私たち学祭スタッフの最高の思い出となりました。

皆様から頂いた励ましの声や笑顔は私たち学祭スタッフを何よりも元気にし、やる気にさせる原動力でした。学祭終了後に「楽しかった!!」という声を聞いたときは、学祭が終わってしまった寂しさを感じながらも、幸せと達成感で胸がいっぱいでした。こんなに素晴らしい学祭に携わることができたことは私の一生の誇りです。

来年度の第52回福教大祭も、今まで受け継がれてきた古き良き伝統を引き継ぎつつ、さらに活気あふれる学祭を後輩たちが作り上げてくれます!来年度の笑顔あふれる第52回福教大祭にもぜひ足を運びください!皆様のお越しをお待ちしております。



第51回福教大祭実行委員長 **日浦 俊紀**
(初等教育教員養成課程1年)



福教大 NEWS 4 ▶ 海外研修に派遣される柔道部学生を学長が激励しました

本学柔道部の林和則さん(中等教育教員養成課程保健体育専攻4年)・田坂冴さん(初等教育教員養成課程保健体育選修4年)が、2月14日から2月22日までアメリカ及びカナダで行われる、2016年度全日本学生柔道連盟海外研修に研修団員として派遣されることになりました。この海外研修は、全日本学生柔道連盟が、柔道を通して見聞を広め、国際性を身に付けることを目的に実施しているもので、林和則さんと田坂冴さんは九州地区代表として選抜されました。

今回の派遣に際して、1月10日(火)に学教室において課外活動支援金授与式が行われ、櫻井学長から「九州地区を代表して派遣されることは名誉なことであり、田坂さんがカナダ・アメリカ、林さんがハワイと派遣先が異なりますが、それぞれ有意義な研修となることを期待しています」との激励の言葉が送られるとともに支援金が授与されました。代表して林さんが「この度は、海外研修派遣の支援金を授与していただきありがとうございます。海外研修では、柔道を通して海外の文化を感じると共に日本の柔道の良さを見つめる機会にしたいと思います。また、競技者としての視点だけでなくこれから指導者の立場として海外と日本との指導方法を考え、そして、今後の教員生活でも生かせるように頑張ります」とお礼と抱負を述べました。

林さんと田坂さんには、心身ともに自分磨きをして大きくなって帰ってきてほしいと思います。



林さん(左)、櫻井学長、田坂さん(右)

「社会に開かれた教育課程」づくりを考える シンポジウムを開催しました

本年度中に新学習指導要領が定められ、小学校では平成32年度から、中学校では平成33年度より、新しい学校教育が始まる見込みです。また、関係法令が改正され、教員を育てるための大学のカリキュラムや取組内容の改善充実が求められています。

このように学校教育や教員の育成を巡って大きな変革が進められる中で、教員養成機能の広域拠点的な役割を果たすことを目指す本学では、新しい学習指導要領の内容や教員として身に付けるべき資質能力について理解し、それぞれの取組を進める上での一助となるよう、福岡県教育委員会及び国立大学協会と共催、北九州市教育委員会及び福岡市教育委員会の後援を得て、「社会に開かれた教育課程」づくりを考えるシンポジウムを1月20日(金)に開催しました。

当日は、本学の教職員や学生、全国各地域の教育委員会、教育センター、大学、学校等の関係者約180人の参加を得て、下記の内容で行われました。

〔「社会に開かれた教育課程」づくりを考えるシンポジウムの内容〕

① 基調講演I

「社会に開かれた教育課程」を掲げた新学習指導要領のねらいと実施について
文部科学省大臣官房教育改革調整官 平野 誠

② 基調講演II

新たな学校教育を担う教員の養成、研修について
文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室長 山下 恭徳

③ パネルディスカッション

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、大学、教育行政、学校はどのように取り組んでいく必要があるか
(パネリスト)

- 文部科学省大臣官房教育改革調整官 平野 誠
 - 文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室長 山下 恭徳
 - 九州ルーテル学院大学副学長 鋤崎 勝也
 - 福岡県教育委員会義務教育課長 相原 康人
 - 福岡県春日市立日の出小学校長 水上 雅義
 - 行橋市立中京中学校教頭 奈女良 裕治
 - 福岡教育大学教育総合研究所准教授 磯部 年晃
- 進行・コーディネーター：福岡教育大学副学長・教職教育院長 寺尾 慎一

本シンポジウムに参加いただいた方のアンケート結果では、ほぼ全員の方々から「新しい学習指導要領、学校教育が目指すものの概要を理解できた」、「新しい学校教育の主要な担い手となる教員を育成する上で、今後、取り組むべきものや現在の課題等を考える機会となった」のいずれかの回答をいただいております。本シンポジウム開催の目的を達することができたものと考えられます。

本学は、平成28年度入学者からの教育学部初等教育教員養成課程、中等教育教員養成課程、特別支援教育教員養成課程のカリキュラムで、学生に新たな学校教育を担う力を育てるための取組を開始しており、これらを一層充実するとともに、地域の教育関係者の方々との連携・協働を進めることにより、学校現場で優れた指導の実践ができる教員を輩出してまいります。



開会挨拶を行う櫻井学長



パネルディスカッションの様子

福教大NEWS 6 ▶ 平成28年度福岡教育大学学生表彰式を行いました

平成29年2月21日(火)に、平成28年度福岡教育大学学生表彰式を行いました。

本表彰は、研究、課外及び社会活動等において、特に顕著な成果や功績を収めた本学学生及び学生団体を表彰するもので、今年度は9名の学生と2つの学生団体が表彰の対象となりました。

表彰式では、本学後援会元会長、役職員及び指導教員・顧問教員が見守る中、対象となる学生及び学生団体の代表者に、表彰状と記念品が贈呈された後、櫻井学長から祝辞が述べられるとともに、後援会からお祝いの言葉をいただきました。また、学生代表の陸上競技部所属・初等教育教員養成課程4年の藤重拓人さんからは、「それぞれの活動での成果は、大学の環境及び教職員の皆様の後押しによるものです。今後、自らの能力を高められるように研鑽に努め、さらなる飛躍を期したいと思います。また、後援会よりいただいた記念品は今後の課外活動、研究活動のために使います」との感謝の言葉と抱負が述べられました。



学生表彰受賞者と学長(中央右)、後援会元会長(中央左)及び関係者

福教大NEWS 7 ▶ 「平成28年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を行いました

平成29年2月21日(火)に「平成28年度福岡教育大学優秀教育実習生賞」表彰式を行いました。

この賞は、「実習生としての教育的愛情、使命感の自覚、授業や学級運営等における教育方法の創意工夫、そして同僚と協同しながら切磋琢磨してきた数々の努力と工夫に敬意を払い、その功績を称える」ことを目的として創設され、本年度は11名の学生が受賞しました。

表彰式では、櫻井学長から、受賞した学生一人ひとりに表彰状と後援会からの記念品が贈呈された後、「質の高い教員養成という理念を掲げる本学にとって、皆さんの頑張りは、実に頼もしい限りであり、今回の表彰を機に、「教師になる」という思いを一層強く掲げ、自己自身の研鑽に励むとともに、友人や後輩たちにもよい刺激を与えていただきたい。教員採用試験合格に向けてがんばってください」と激励がありました。

その後、学生の代表から、「この賞を受賞できたのは、附属学校の先生方、大学で指導いただいた先生、なにより共に実習を乗り越えた仲間のおかげです」と感謝の気持ちが述べられました。また、「実習中は、子供との関わり方に戸惑ったり、授業づくりに行き詰まったりすることもありましたが、それ以上に子供たちの成長に関わっていける教師という仕事の楽しさ、やりがいを感じ、より一層教師になりたいという気持ちが強くなったと感じています。今回実習で得たものを自分の糧として、仲間と切磋琢磨しながら目指す教師になれるよう努力していきたいと思います」と力強い謝辞がありました。

表彰式終了後は、学長、理事をはじめご来賓の篠崎福岡教育大学元後援会会長、各附属学校から出席いただいた校長、大学指導教員と、写真撮影を行いました。



平成28年度優秀教育実習生賞表彰式



聴覚障害児指導法Ⅱ

教職教育院・特別支援教育講座 教授 相澤 宏充



教員プロフィール
相澤 宏充
(あいざわ ひろみつ)

筑波大学大学院心身障害学課程心身障害学専攻修了(博士(教育学))。2005年本学に赴任。専門は聴覚障害児心理学。聴覚障害児の言語習得や心理的な発達について研究を行っています。

位置づけ

この科目は、特別支援教育教員養成課程3年次の学生対象です。聴覚障害専攻の学生の最後の必修科目となっており、カリキュラムのまとめの側面も持っています。聴覚障害専攻の学生8名と、他専攻の3、4年生の併せて20名程度の人数で授業を例年行なっています。特別支援教育の免許の中で「聴覚障害」領域が取得できるのは、九州では本学のみですので、教える側にとっても非常にやりがいがある科目です。

実習経験

実習直後の学期に設定されているので、その経験を指導の理論と関連づける授業を行なうことにしています。実習の具体的な工夫や教育の難しさを発表してゆくことで、自身の実習について客観的に見つめ直すことが可能になります。聴覚障害専攻以外の学生は、聴覚障害児を対象とした実習経験はありませんので、発表者に積極的に質問し、教育の実情を理解しようとする姿が見られます。

授業の特徴

講義内容としては、指導法や言語発達の知識について学んでゆくことが主となります。知識を深めるために、様々な課題を課します。指導案の作成や、聴覚障害児教育に関係する様々なテーマをまとめる課題、それらまとめを使用したテストも行います。これらの課題については、授業外の学習の時間を有効に活用させ、一人につき6-8回程度の個別の指導も行なっています。



$$A + B = C^2$$



教育実践研究の理論と 授業分析トライアル

教職実践講座 准教授 青山 之典
教授 矢野 俊一
教授 青木 哲也



教員プロフィール



青山 之典(あおやま ゆきのり)
広島大学大学院教育学研究科博士課程後期修了(博士(教育学))。小学校教諭・大学教員を経て、2015年赴任。専門は国語科教育、教師教育を中心に、授業分析、授業開発に関する授業を担当しています。



矢野 俊一(やの しゅんいち)
福岡教育大学卒業(教育学・教育心理学科)。小学校教諭、教育事務所主幹指導主事、小学校長を経て、2012年赴任。専門は理科教育、スクールコンプライアンスと教職プロフェッションの開発の授業を担当しています。



青木 哲也(あおき てつや)
筑波大学体育専門学群卒業(学士(体育学))。中学校教諭・教育委員会指導主事・小学校校長を経て、2015年赴任。専門は体育科教育、教師教育を中心に、道徳や教師の力量形成に関する授業(保護者連携等)を担当しています。

授業者として成長し続ける力を身につける

他者の授業実践から示唆を得て、自らの授業を改善することのできる力の獲得、それが本授業の目的です。そのために、場を変えながら①～③の流れを繰り返し、少しずつ力を高めていきます。

①授業の事実を捉える

授業者の手立てと学習者の反応の関係をありのままに記録することで、背景にある授業者の意図を的確に推測することができます。

②対話によって意図を確かめる

授業観察において推測した授業者の意図を協議会において確かめます。そうすることで授業観察に対する構えが変わり、授業の事実を捉えるための視野が広がっていきます。

③改善のための分析

自らの授業の改善に向けて示唆を得るため、事前に授業記録および分析レポートを作成するとともに、自己授業の改善案を作成します。交流会では、グループ協議を行い、授業づくりの要点についてまとめていきます。これらの学修を通して、分析に必要なものの見方、分析結果を授業改善に生かすものの見方を身につけていきます。

多様な授業観察の場、 校種・教科を越えた交流

教職大学院OBの授業(小・中)、道徳の授業、ICT活用の授業など、様々な校種・教科の授業を観察し、授業を見るための広い視野を培っていきます。

また、交流会では敢えて校種・教科を越えたメンバーでグループを編成し、授業づく

り一般において大切にすべきことを導き出せるようにしています。



教職教育院・学校教育講座 かわち 河内 しょうこ 祥子 研究室

研究の原点は「子供」

福岡教育大学に赴任したのは2007年のことですが、それ以前に10年近く、公立高校で公民科の教諭として勤めていました。ホームルーム担任や教科担任という立場から子供と関わり、怒ったり、笑ったりしながら充実した毎日を過ごしました。現場での経験を生かし、理論を構築する大学と実践を進める教育現場を結ぶ存在になりたいとの思いから本学に就任しました。教員として子供と向き合った日々こそが研究を行う上での原動力になっています。

本学では司書教諭関係授業の運営に関わっていますが、学校図書館の研究を始めたのも高校教員の時に「現代社会」等の授業で調べ学習を行ったことがきっかけです。学校図書館を活用した調べ学習等の授業は、新学習指導要領でも注目されているアクティブラーニングそのものです。今日では、学校図書館やそのメディアを活用した教育は、教科を問わず全ての教員に求められているのです。そのため教員を志し、司書教諭資格の取得を希望する学生がスムーズに修習できるように微力ながら努めています。

学校現場からみた教育問題

近年では、学校の危機管理に関する研究を中心に進めています。学校の危機管理においては、事件や事故が発生した際のクライシス・マネジメントが重要です。しかし、ひとたび重大な事件や事故が発生す

るとどんなに適切な対応をしたとしても、守ることのできない命もあります。子供の未来を守るためには、学校においても事前の危機管理(リスク・マネジメント)が必要不可欠なのです。

一方、学校はリスクをゼロにすることは不可能です。例えば、体育の実技で事故が多いからといって、体育の実技を一切行わないということではできません。一定のリスクは背負った上で、重大な事件や事故をゼロにするために何ができるかを考えるしかないのです。大きな事件や事故が起これば、子供の未来が奪われます。同時に子供を守ることのできなかった教員も教員としての未来が閉ざされるとしても過言ではありません。これらの研究により子供はもちろん教員も守ることができればと考えています。

大学と学校現場をつなぐために

河内研究室では、理論と現場をつなぐ研究とは何かを探ることが究極のテーマです。現在、研究室には教育法制度や教育実践学の視点から学校教育が抱える課題について研究をすすめる学生が在籍しています。毎週、ルームの時間には、学生自身が設定したテーマで報告を行い、議論を重ねています。また、児童・生徒の教育にかかわる仕事のやりがいは誰よりも知っていますので、教員を志すルーム生には全力でサポートしています。



4年生の先輩を招いて(教職教育院1年生ルーム)



3・4年生集合写真



河内研究室で作成した教材例(学校の危機管理)



卒業論文公開審査会の様子



教員採用試験合格お祝

男子ハンドボール部

Handball Club

私たち男子ハンドボール部は、部員10名で、週に5日、日々チーム内で切磋琢磨しつつ、競争心を燃やしながら、高い目標に向かい、練習に励んでいます。他の大学に比べ、人数や練習時間が多くはないですが、限られた時間の中で、一人ひとりがしっかりと目的、考えをもつことで内容の濃い練習をしています。また、それぞれが向上心を持ち、互いに意見を言い合う、メリハリのある部活です。学年に関係なく大変仲がよく、楽しみながらハンドボールに取り組める最高の環境です。

大会の成績については、現在、九州地区の大会において一部リーグで奮闘しています。昨年度は春の大会では4位、同じく秋の大会でも4位と納得のいく結果とはなりませんでした。しかし、「西日本学生ハンドボール選手権大会」への出場を成し、冬の県リーグでは準優勝という成績を残すことができました。過去には春や秋の大会で上位入賞、「全日本学生ハンドボール選手権大会」への出場もしています。今年度は、昨年度や過去の実績を超えるべく、高い意識と目標をもって精進していきたいと思っています。

ハンドボールに情熱的に取り組みたい、ハンドボールを楽しみたいという方、ハンドボールが好きな方はぜひ、福岡教育大学ハンドボール部へいつでもお待ちしております。

初等教育教員養成課程 1年 武藤 晃大



演劇研究会

Drama Club

「感動」を届けるサークル、人と人、人と物語の「出会い」をつくるサークル、それが演劇研究会です。

一つの作品をつくるために「俳優」「スタッフ」「脚本」「演出」「ポスターデザイン」「イベント企画」など自分がやってみたいことを中心に関わりながら、一緒に舞台をつくっています。メンバーはほぼ大学から演劇を始めた人ばかりですが、恥ずかしがりながらも、演技に挑戦したり、効果音選びや照明センスで意外な才能を発揮したりしながら楽しく活動を行っています。

大学内、宗像市内、ときには県内や県外のコンテストに出場して他の団体と競い合ったり、コンテスト先の京都で旅行を楽しんだり、いろんなところで公演を行ったりしています。また、福岡教育大学のセミナーの実演のお手伝いやPV(プロモーションビデオ)に出演するなど、舞台の外でも活躍中です。

演劇を通じて、大学外の多くの方々と関わりながら活動しており、県内の劇場や劇団の方、時にはプロの脚本家さんとも関わりながら作品づくりを楽しんでいます。いつも刺激的で自分の世界がどんどん広がる毎日です。演劇研究会、縮めて「ゲキケン」をぜひ応援してください!



初等教育教員養成課程 社会科選修 3年 上平瀬 賢



学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載第16回

「持続可能な開発のための教育(ESD)」推進とユネスコスクール支援に向けた本学のアウトリーチ事業

小学校および中学校の次期学習指導要領(案)では、総則において、「これからの学校は、(中略)持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあり、重要な位置づけがなされています。「持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development)」に対し、本学ではCOC事業(地(知)の拠点整備事業)の戦略的事業のひとつの柱として、積極的な取組を展開しています。

1. ESDとASPUnivNet

【ESDとは】

日本ユネスコ委員会は、ESDについて、「ESDとは、これらの現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む(think globally, act locally)ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。」としています。

すなわち、ESDは、特定の教科ではなく、すべての教科等が取り組まなければならない方向性とも言えるでしょう。私たちの身近なところでは、「このままでは持続可能ではない。」と思われる場面や状況をよく見かけますが、このことを看過することなく、どうすれば持続可能な社会を構築できるか、ESDはそのために必要な資質・能力とともに、知識・技能を習得するものです。

【ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet: ASPユニブネット)への加盟】

ESDの実践に関して先導的役割を担ってきたのがユネスコスクールです。このユネスコスクールに対して専門的知識や情報を提供することによって支援するのがASPUnivNetです。ASPUnivNetは世界の中で日本だけにしかない組織です。本学は平成24年度末に加盟し、ユネスコスクールの支援及びユネスコスクールに加盟しようとする学校の支援、その他、よりよいESD実践のために、学校現場や教育委員会と連携を取りながら、研修会などを実施しています。

加盟大学一覧(平成29年2月現在)

- 北海道教育大学釧路校
- 三重大学
- 東北大学大学院 環境科学研究科
- 大阪府立大学
- 宮城教育大学
- 奈良教育大学
- 玉川大学教育学部
- 岡山大学
- 東海大学教養学部
- 広島大学大学院 教育学研究科
- 金沢大学
- 広島市立大学
- 静岡大学教育学部
- 福山市立大学
- 岐阜大学
- 鳴門教育大学
- 愛知教育大学
- 福岡教育大学
- 中部大学



平成28年度 第1回 ASPUnivNet 連絡会議

2. 本学の取組

【九州の教員養成拠点大学としての支援地域の拡大】

本学が、九州の教員養成拠点大学としての役割を担うことに鑑み、当該地域においてESDの推進とユネスコスクールの支援に取り組んできました。平成27年度までは福岡・佐賀・長崎の3県を支援地域としました。大牟田ESDコンソーシアムの一員となり、本学教員がコーディネーターを務めたのはじめ、大牟田市教育委員会主催による研修会や北九州市教育委員会によるユネスコスクールの校長を対象とした研修会などに本学教員が講師として出向きました。また、佐賀県玄海町の小中一貫校、長崎県立高校のユネスコスクール加盟申請に際して支援を行い、ユネスコスクールの空白県解消に努めました。

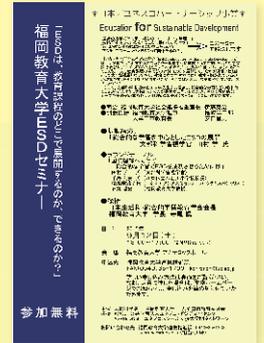
平成28年度は、支援地域を九州地方全域に拡大し、九州の教員養成拠点大学としての役割を明確にしました。ユネスコスクールの加盟が少ない大分県への支援を強化し、「福岡教育大学ESDセミナーin大分」を開催しました。さらに、国立教育政策研究所によるESD研究指定校である佐伯市立宇目緑豊中学校への実践指導も本学教員が携わっています。

【本学主催セミナーの実施】(いずれも文部科学省委託事業。ASPUnivNetとの共催)

年度	実施内容等
平成26年度	ユネスコスクール・ESD研修会in大牟田 (共催:大牟田市教育委員会)
平成27年度	福岡教育大学ESDセミナー
平成28年度	福岡教育大学ESDセミナーin大分 (後援:大分県教育委員会・大分市教育委員会)



平成26年度ポスター



平成27年度ポスター

3. 今後の展開

教員養成の広域拠点をめざす本学としては、九州各県の教育課題を的確に把握する使命をもちます。中山間地域や離島地域を多く抱える九州地方には、地域の持続可能性を追求することは重要な課題となっています。教育そのものが抱える課題とともに、教育が取り組まなければならない課題も教育課題として広義にとらえ、ESDによる持続可能な地域づくりのための教育実践ができる教員を養成することにも着手しました。これまで、教員免許状更新講習で「ESDで何をどう教えるのか?」を開講してきましたが、平成30年度より本学の初等教育教員養成課程のカリキュラムにおいて「持続可能な開発のための教育」が開設されます。また、大分県教育委員会と連携して、持続可能な地域づくりのための教育をコミュニティスクールにおいて展開する方途を研究し、その成果を「地域とともにある学校づくり推進協議会(仮称)」において公開することを企画中です。

ESDは特定の教科や領域ではなく、ESDの理念はすべての教科等に通底することから、教員養成大学としての本学は、キャリア教育、学校運営協議会(コミュニティスクール)、など、広義の教育課題に立ち向かい、社会に開かれた学校を応援するプログラムを今後も積極的に展開していきます。



1月26日ESD推進の手引き研修会



12月26日福岡教育大学ESDセミナーin大分



子供の人生の礎を築くことができる職業。子供の教育に直接携われる職業。子供の成長に感動し、子供と共に自分の人生も輝く職業。これが「教職」です。

教師として

私は、教師に最も必要な力は、子供理解に立った授業力だと思っています。学校生活において、子供たちの1日の大半は授業です。子供たちが、「やってみたい」と好奇心で目を輝かせ、「楽しい、面白い」と活動に熱中し、「できた!わかった!」と喜ぶ姿を見ると、本当に嬉しくなります。授業づくりで一番大事なのは教材研究です。子供の姿を思い浮かべながら、「これは惹き付けられるだろう」「どんな発言が出てくるかな」「もっと何かないかな」。授業づくりの試行錯誤を繰り返す中で、「これだ」という「手だて」が見えてきます。子供の笑顔のために、自分の授業力を高めていきたいと思っています。

人として

これまでの教職生活を通して、どうしたらよいか悩むこともありました。そんな時、周りの先生方は、私をよく見てくださっていて、必ず支えてくださいました。先輩方の授業実践や学級経営を参考に、自分の実践に取り入れてきたことも今の私の財産です。今後は、私が後輩の皆さんへ先輩方から得た財産を伝えていきたいです。また、教師という仕事は、子供たちの教育へ携わるからこそ、責任も重大です。常に向上心をもって、謙虚に、そして、決してあきらめず、前を向いて学び続けていきたいです。最後に、健康快活は教師の資本です。笑顔で子供たちと関わるができるよう、健康管理には気を付けています。



福岡教育大学附属福岡小学校

かねがえ たかこ
教諭 鐘江 貴子さん

平成10年3月

初等教育教員養成課程
理科選修卒業



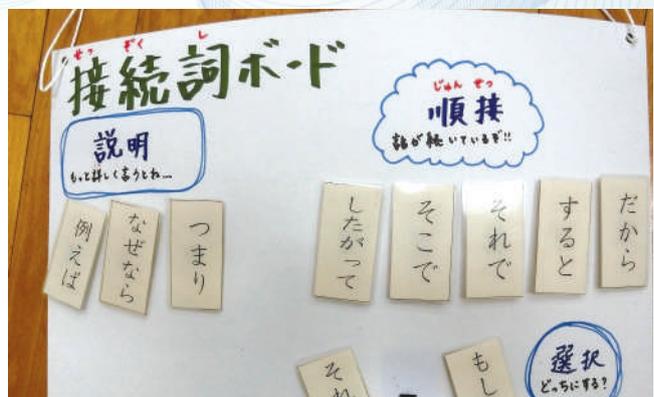
授業風景



ルームの友人との食事会



感情を表す言葉



接続詞ボード

「聞こえない人と聞こえる人の架け橋になる」

そう心に決めて、念願の教職に就き、気が付けばもう3年目に突入しようとしています。

これを書いている私は、教職に就いて初めての卒業生を送り出す準備をしているところです。子どもが無事に卒業してくれることがうれしいような、でもやっぱり寂しく、まだまだ一緒に過ごしたいような…何ともいえない複雑な心境です。

教員になって初めて担任させていただいたクラスは5年生。

あの時は、何もかもが初めてのことで、毎日戸惑っていたのを覚えています。

どうやったら分かりやすくなるだろうか。

こんな時にはどうしたらいいだろうか。

たくさんたくさん悩みました。時には眠れない日もありましたが、周りの先生に相談したり、研修会に参加したりして、一つひとつ乗り越えることができました。

授業をし、放課後には先生方と打ち合わせをして、それから授業の準備に取り掛かって…と、あっという間に1日が終わり、正直学校にいる間は「ホッ」と一息をつく暇もありません。

そんな私にエネルギーをくれるのは、子どもや保護者からいただく言葉です。

「苦手だけど100点取れた!」

「先生、プレゼントがあるから待っていてね、中身はお楽しみ!」

「100点とってうれしそうに報告してくれました!」

「子どもの小さな成長が伝わってきてうれしく思います」

このような言葉をいただくことで、安心感だけでなく、もっと頑張ろうという気持ちが湧いてきます。

学生のみなさんへ

「経験が大事」「仲間が大事」…これまでたくさんの先輩方が口をそろえておっしゃっていることですが、本当にそのとおりです。

仲間と共に、何事にも全力で取り組み、何事も思い切り楽しんでください。



福岡県立小倉聴覚特別支援学校

たかど きく
教諭 高戸 季来さん

平成27年3月

特別支援教育教員養成課程
聴覚障害児教育コース卒業



生サークル「ゆかいくらぶ」が 学生地域活動大賞の優秀賞を受賞しました

福岡教育大学学生サークル「ゆかいくらぶ」が、大学ネットワークふくおか(福岡都市圏20大学・福岡商工会議所・福岡市で構成)の「学生地域活動大賞」の優秀賞を受賞しました。

学生地域活動大賞とは、環境や福祉、まちづくりなどの実際の地域社会と関わる研究や活動を実践的に行っている大学生のグループを広く周知し、その研究や活動を地域社会の活性化に活かすことを目的として、その優秀な活動を表彰するものです。

ゆかいくらぶは、福岡教育大学に在学中の学生で構成し、子供の各種体験活動のボランティア支援を行う事を目的とした団体で、毎月1回、主に宗像市内の小学生と様々な活動を通じて交流をしています。

活動の中で、1泊2日のキャンプを行い、飯盒炊飯や自炊活動の経験をし、また、カレンダー作りやウォークラリーなどの自然活動等の体験を通して、子供達の自立性やコミュニケーションをはかり、家庭では経験できない活動を行っています。

ゆかいくらぶのこれまでの活動が、今回このような形で表彰されたことは、将来教員を目指す学生を養成する本学にとっても、非常に嬉しい出来事です。今後の彼らの活動にも大いに期待しています。



ゆかいくらぶの学生

ゆかいくらぶの代表学生のコメント

ゆかいくらぶはこの度、大学ネットワークふくおかが主催する学生地域活動大賞で優秀賞をいただくことができました。

ゆかいくらぶは、今年で発足24年目を迎えます。このように長く活動していくためには、保護者の方々と子供達、そして学生の信頼関係が必要不可欠だと考えます。

毎月の活動後には、反省会をして子供の様子について話し合います。年度末には、保護者会を開き、保護者の方々からのご意見をいただきます。このような話し合いの場を設け、よりよい活動を行ってほしいという意識が信頼関係を生み出し、20年以上継続して活動していることに繋がっていると思います。

今回、優秀賞をいただくことができたのも、私はこの「継続性」だと考えます。

今回の賞をいただくにあたって、多くの方々にお力添えをいただきました。学生支援課のボランティアコーディネーターの先生方や井上豊久先生には、お忙しい中、私のつたない発表原稿や資料を丁寧に指導していただきました。

また、発表当日には現地にもいらしてご指導と支援をいただき、大変励みになりました。

学生地域活動大賞の発表の場には、九州大学や福岡大学といった他大学のボランティアサークルの方々もいらっしゃり、最初は緊張しましたが、楽しく発表することができました。

このような貴重な経験は必ず、将来教員になるうえで生きてくると思います。

ゆかいくらぶは、学生地域活動大賞で優秀賞をいただいたほかにも、今年度ボランティア団体として全国表彰をいただきました。

これからもずっと学生と子供達、そして保護者の方々との信頼関係を保てるように継続して活動していきたいと思っています。

ゆかいくらぶ 平成28年度代表 **嶋田 浩一**
(初等教育教員養成課程 社会科選修 3年)

表紙モデルの福教大生☆

今回の表紙は、平成28年度実施の教員採用試験に合格した4年生のみなさんにご登場いただきました。特集1の中で、みなさんそれぞれの思いをメッセージとして寄稿いただいています。

具体的な勉強方法や試験に向けての姿勢など、これから教員採用試験を受ける在学生のみなさんにとって、大変参考になるものではないでしょうか。

合格者のみなさんは、この4月からそれぞれの学校で、教師生活がスタートします。

本学での様々な経験を糧に、これからも信念を持って学び続ける、素敵な教師に成長してほしいと心から願っています。



キャンパスからの便り

Campus letter

同窓会 城山会

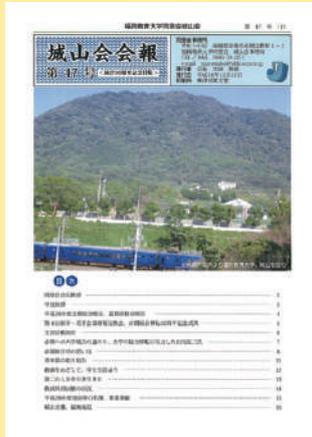
じょうやま

会報47号(赤間統合移転50周年記念特集号)発行

平成28年12月に会報47号(赤間統合移転50周年記念特集号)を発行いたしました。

会員の皆様には、5支部、28支会より配布しております。在学生(準会員)の皆様へはJOYAMA通信と同封にて保護者の皆様へお届けいたします。学内学生会館1階にも置いてありますので是非ご覧ください。

ご意見等ございましたら同窓会事務局までご連絡ください。



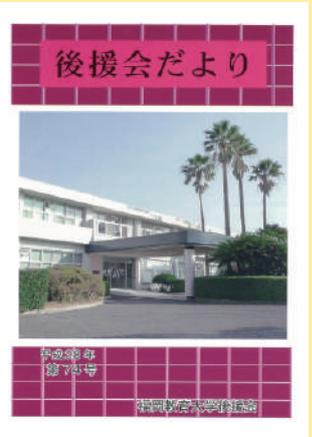
福岡教育大学同窓会 城山会事務局
TEL・FAX: 0940-33-2211
e-mail: joutamakai@able.ocn.ne.jp
URL: katumi.server-shared.com

後援会

「後援会だより」第74号発行のお知らせ

「後援会だより」第74号を12月に発行し、保護者の皆様に送付いたしました。第74号は理事のお話や新しく始まった英語習得院のELI講座についてのお話や就職支援、就職状況について、在学生のボランティア活動、就職活動や教育実習についてなど盛りだくさんです。そして後援会からのお知らせとして4月4日(火)の総会のご案内も載せています。皆様の後援会に対するご意見ご要望をお待ちしています。

後援会事務局
TEL・FAX: 0940-33-8070
e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp



健康科学センター

健康科学センターでは、医師、看護師、カウンセラーによる心身両面での相談を受け付けています。

その他、いろいろな企画をしていますので、ぜひお気軽にお越しください。

一緒に花を植えてくれる人を募集しています

日時: 月1~2回 水または金曜日
14:30~16:00

場所: 健康科学センター前の花壇

※参加希望者は、健康科学センタースタッフに声をかけてください。
※当日は、飲み物持参です!
※お花を育てる会では、月に2回のペースで、園芸ワークショップをしています。
※お気軽にご参加ください!

植物に育てて五感を刺激させよう

お花を育てる会



※お花を育てる会※

開催日は掲示板やHPでお知らせします(2回/月)。
天候によって、編み物やしおりの制作なども行っています。

健康科学センターHP
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

福岡教育大学基金のご案内

福岡教育大学では、教育研究の更なる発展や充実を図ることを目的として、「福岡教育大学基金」を設けております。つきましては、広く教育界、産業界、地域の皆様方に、本基金への格別のご理解とご支援を末永く賜りたく、お願いを申し上げます。

公式ホームページ

福岡教育大学基金

検索

https://www.fukuoka-edu.ac.jp/about/efforts/foundation/fukkyou_foundation

「福岡教育大学基金」についてのお問い合わせは、福岡教育大学財務企画課までご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

福岡教育大学財務企画課 TEL:0940-35-1210 FAX:0940-35-1701 E-mail:kaihosa@fukuoka-edu.ac.jp

Joyama 通信 vol. 38



福岡教育大学
イメージキャラクター
フッキー

福岡教育大学広報誌第38号

2017年3月22日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

編集後記

■特集1では、今年度の教員採用試験の状況と本学のキャリア支援センターを中心とした取り組みについて紹介しています。今年度の教員採用試験合格者数は、ここ数十年で最多となりました。

今後も、教員養成における九州地区の拠点大学として、学生のみならずの教師になる夢の実現に向けて、教職員一丸となって支援いたします。

(広報編集部)

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。